

常盤中学校コミュニティスクールだより

No. 1

令和5年度の第1回学校運営協議会が、6月27日（火）10時から常盤北小学校のメディアルームにて行われました。今年度も常盤小と常盤北小と共に3校で常盤中学校区コミュニティスクールを進めていきます。

<令和5年度 学校運営協議会委員>

会長	栗原 勝義	(常盤公民館館長)
副会長	佐藤 好子	(常盤中学校後援会会長)
	志水 正	(北浦和5丁目自治会長、青少年育成常盤地区会長)
	柴崎 八重	(さいたま浦和地区更生保護女性会顧問)
	佐藤 マミ	(浦和地区中央地区民生委員・児童委員)
	財部 幸樹	(常盤北小学校校長)
	近藤 一幸	(国際交流協会事務局長)
	大庭 裕信	(AGS株式会社キャリアアドバイザー)
	菊地 耕太郎	(埼玉りそな産業振興財団専務理事)
	作間 由美子	(株)メディアサービス代表取締役)
	斎藤 光人	(株)ゴールドアンドグリーン代表取締役)
	山本 夕紀	(常盤中学校PTA会長)
	輿石 純美	(常盤中学校PTA副会長)
	玉崎 芳行	(常盤中学校校長)
	吉田 賀一	(常盤中学校地域連携コーディネーター)



学校運営協議会の様子

はじめに学校運営に関する基本的な方針の説明等と承認を行いました。

校長より資料をもとに令和5年度「学校グランドデザイン（案）」及び「学校評価システムシート（案）」をもとに教育課程の編成、学校経営計画、組織の編成、予算の執行、施設及び設備の管理に関する説明をしました。上記内容について質疑応答の時間を設け、その後、全委員より承認を受けた。

熟議の時間では、各校教頭より、昨年度の運営協議会の内容について報告を行い、各グループに分かれて、昨年度より継続の「あいさつについて ～コミュニケーション力の育成～」をテーマに、議題である「今年度取り組む具体的な実践内容について」を各グループで話し合いました。各グループで、「いつ」「どこで」「誰が」「どんな内容ができるか」などをそれぞれの立場で考え、その内容について発表しました。

各グループの意見

グループ1

地域：夏まつりに親子で参加する、少年団等にも参加する

学校：来校者へのあいさつをする、「挨拶」をすることの意義を授業等で伝える

家庭：親が積極的にする（家を送り出す時）

グループ2

地域：国際交流協会では、外国人の方にやさしい（優しい、易しいの2つの意味で）日本語の取組を小・中学校で試してみてもどうか、子どもにヒントを与えて家庭で話す

<p>学校：「あいさつ運動」の取組を地域にポスターなどを作って貼って広めていく</p> <p>家庭：PTAとして「あいさつをしましょう」を呼びかけていくことも大切、各家庭でできることを投げかけていく</p>
<p>グループ3</p> <p>地域：地域のイベントに関わる、地域にお願いするといろいろと関わってくれるので生かす、よい人間関係づくりとして「アイコンタクト」がキーワードとして挙がった</p> <p>学校：授業の中でも取り組んでいる、コミュニケーション力を高めている、地域の方へも授業公開していくとよい、生徒会・児童会から広める</p> <p>家庭：家の中でのあいさつを大切にする</p>
<p>グループ4</p> <p>地域：知ってもらう取組をする、地域で知っている人には挨拶する</p> <p>学校：各教科で指導する、教師から挨拶する、小・中での連携を深める、生徒会・児童会、委員会を使う</p> <p>家庭：あいさつは機嫌が悪くてもする、目を見て必ずする、親からする</p>
<p>グループ5（</p> <p>地域：地域のイベントに親子で参加する</p> <p>学校：あいさつ運動を続ける</p> <p>家庭：親子で活動する。親ができないと自己肯定感が少ない。親子で話し合う場を増やす</p>
<p>グループ6</p> <p>地域：行事であいさつ活動をアピールしたい、始めと終わりをしっかりする</p> <p>学校：学年に応じた語彙力・表現力、4つの言葉（おはようございます・はい・ありがとうございます・ごめんなさい）の再認識をする</p> <p>家庭：身近な場所からあいさつする、あきらめず努力する、話す機会を作る、言葉のキャッチボールを行う</p>

本日のまとめ

常盤北小教頭が、各グループの意見を受け、キーワードを挙げてみました。内容をまとめると地域、学校、家庭で、あいさつの価値、意義について、それぞれの立場で確認して、今後実践していく。

